第 8 回 1 月 21 日（木）

今回の一流塾は、講師に絹谷幸二氏（日本芸術院会員、東京芸術大学教授、画家）、島正博氏（㈱島精機製作所代表取締役社長）を、懇親会の特別ゲストに野田聖子氏（衆議院議員、前消費者行政推進担当・宇宙開発担当大臣）、鈴木英夫氏（経済産業省 通商政策局 通商機構部長）をお迎えしました。

冒頭、一柳塾長から書家の紫舟氏（ＮＨＫ大河ドラマ“龍馬伝”の題字や、TVCM 等でご活躍中の一柳の友人）から贈られた書に記載されている高杉晋作の辞世の句「おもしろき　こともなき世を　おもしろく」を紹介し、面白くない世の中を面白くするのは自分次第である。一流塾でしっかりと自分を磨き、たった一度の人生をどう生きていくかよく考えて欲しい、と塾生を激励しました。

絹谷氏は『美の心－芸術感性を経営に活かす－』と題し、日本は異国と接する厳しい環境を生き抜いてきた欧米の国々と比べると、戦争や疫病等から守られてきたいわばトロピカルアイランドである。そこに住む我々日本人は欧米人と比べるとぼやっとしているが、もっとしっかりしなければならない。他者との差別化のためには、既存の枠組みにとらわれない想像力を超えた創造力、発想の豊かさが必要であるという点では、企業経営も芸術に通じるところがある。経営者は創造力・感性を磨く為に、芸術・自然・宗教に学ばなければならない、と述べられました。芸術的な観点に立った語り口に、塾生からは「“想像力”を超えた“創造力”という言葉に大変感銘を受けた」との声が上がっていました。

島氏は『愛・氣・創造で世界のオンリーワンへ』と題し、創業時からの発明の苦労話や、倍速人生のきっかけ、世界発の全自動横編み機の開発秘話、ホールガーメント（無縫製ニット織機）開発への思い等を語られ、夢を持ち努力を続け実行することの大切さを強調されました。また、相手の立場に立つマーケットインの視点に基づき、感性・技術・商品企画を融合させることの大切さ、従業員のやる気を引き出す仕組としての利益 3 分法、和歌山に本社を設置する思い等についてお話を頂きました。

塾生からは、「何故？と考えることの大切さを再認識した」、「絹谷講師に引続き“感性”に関するお話があり、考えさせられる」等の声があげられました。

野田聖子氏は忙しい国会日程の合間をぬってご出席頂き、日本経済を活性化させるためには女性、シニア世代、障害者の潜在力をもっと活用する必要があるという持論や、今後の政治動向に関する分析をご披露頂きました。また、鈴木英夫氏からは、昨年末に公表された「新成長戦略（基本方針）～輝きのある日本へ～」のご紹介や、公務員改革に関する意見等をご披露頂きました。

懇親会では様々なバックグラウンドを持つ講師・ゲストと塾生との自由闊達な意見交換が行われ、大変盛り上がりました。